

第4回能登半島地震対応検証委員会 議事録

日 時 令和7年1月31日（金）午後1：30～2：30

場 所 射水市本庁舎 301 会議室

出席委員 8名（10名中） オブザーバー 3名

次 第

1 開会

2 市長あいさつ（省略）

委員長あいさつ（省略）

3 議事

【委員長】

「令和6年能登半島地震対応検証報告書」について説明を求める。

【事務局】

説明

【委員長】

事務局からの説明について、ご意見、ご質問はないか。

【委員】

12 ページで作道や塚原などは津波のリスクがない地区と表現してあるが、これらの地区は、津波による河川遡上の観点からすると危険であるため、表現を検討されたい。

【委員長】

リスクがない地区は基本的にはないことから、リスクが小さい等に表現を改められたい。

【委員】

今後の予定について、短期（1～2年）、中期（3～5年）とあるが、それ以降の5年、10年後の検証をどのようにするのか記述していただきたい。定期的に市の訓練などを通じて検証し、改善すべき点があれば見直すことを記載しないと一方通行になってしまう。検証項目を設定することは必要ないが、今後も見直していくことは記載すべきである。

17 ページに看板を更新・増設とあるが、津波の浸水高だけでなく、到達時間を入れる、すぐ逃げろと入れる、あるいは、外国人でも分かるようなQRコードを入れるなど様々なアイデアがある。一方で、地震が起こった時にQRを読み込んでいると逃げ遅れることも考えられる。事例等を参考にしながら、効果的な良いものを作っていただきたい。

【委員】

19 ページのデジブックとやまの展開図の「高齢車」は誤字のため、見直されたい。

【事務局】

「高齢者」に修正する。

【委 員】

射水市の検証項目にはないが、石川県では、医療関係の DMAT、DWAT の派遣が非常に遅かった、難しかったと言われている。射水市でも負傷者等が出た場合の関係者との連携、受援体制など受入体制についての検討も必要だと思う。

また、ボランティアセンターを立ち上げるにあたり、災害が起きる前から連携協定を結んでいる団体との日頃からの連携が大切だと思う。

【委 員】

市民が理解しやすいよう公助・共助・自助の観点について、わかりやすくしていただきたい。例えば、18 ページの対策案で「地区防災計画の策定推進方法を具体的に記載」とあるが、具体的にどうしていくのか知りたい。この部分に限らず、具体的な内容について、わかりやすいよう記載してほしい。

【委 員 長】

該当部分について、ウェブ上でリンクを貼るなど工夫できれば良い。

【委 員】

住民の避難行動の問題点に、「市民のおよそ半数がハザードマップを正しく理解していない」とあるが、高齢者が理解しやすいようハザードマップの活用等について検討されたい。

4 閉会

【委 員 長】

それでは、第4回令和6年能登半島地震対応検証委員会を終了する。委員各位には熱心に審議いただき、深く感謝申し上げます。

【事 務 局】

本日の意見を踏まえて修正した報告書は、3月末を目途に郵送する。